

Tama and Music Arts Festival 2022

2022.2.19. SATURDAY

Tama Music and Arts Festival 2022

テーマ：Inter-X

YouTubeによるライブ配信 / 参加無料

13:00～（公演後アフタートークあり）

*詳細はQRコードまたはウェブサイトからご確認ください。

詳細はこちら



主催：明星大学情報学部（東京都日野市）
企画運営：Tama Music and Arts Festival 実行委員会
お問い合わせ：tamamusicfestival@gmail.com
ウェブサイト：<https://tamafes.tumblr.com>

【音楽作品上演およびプレゼンテーション】

- ・石上 加寿也『放下放下著』電子音響のための
- ・磯部 英彬『ナポリまで4マイル』フルード、サクソ、ピアノ、イソバレルとホシヤボードのための
- ・牛島 安希子『Instan'stillation』コントラバスリコーダーとエレクトロニクスのための
- ・大久保 雅基『あなたが来たときに私はここにいた』
- ・佐藤 亜矢子『「線」の向こうと、こちらと、周りと、そこまでと。』
- ・柴山 拓郎『先駆的芸術音楽の多様な人々との共創を目的とした創造的フィールドのデザイン』
- ・平山 晴花『動きと音による相互作用：開かれた音楽の創造と演奏に向けて』
- ・横山 真男『チェロ独奏のための吟詠～和の心を西洋音楽で表現する』

Tama Music and Arts Festival 2022

2022.
2.19.
SATURDAY

テーマ：Inter-X YouTubeによるライブ配信 / 参加無料 13:00～（公演後アフタートークあり）

！ Tama Music and Arts Festival とは

現代音楽、およびコンピュータや電子音響によるエレクトロアコースティック音楽を中心に発表される音楽フェスティバルです。作曲家自らによる作品の楽しみ方や聴きどころについての解説もお楽しみいただけます。専門家の方ももちろんのこと、普段馴染みのない方にも現代の最先端の芸術表現について知っていただき、十分楽しんで頂ける内容を目指しています。また、情報科学分野と芸術学分野の専門家が共同でオーガナイズに関わることで、学際的な分野の振興を図り、学術的な観点からアプローチします。

！ テーマ：Inter-X

Inter-とは「～の間」「相互の」という意味をあらわす接頭辞です。たとえば、インターフェース、インタラクション、インターメディア、インターネットといった言葉があります。音楽界は、パンデミックによりこれまでになかった厳しく長い冬の時代を過ごしました。そして今、私たちは新たな扉を開き、春を迎えようとしています。第4回となる本音楽祭は、音楽と私たちの間をつなげる場を絶やさぬようにという想いをこめて「Inter-X」というテーマのもとでオンライン開催されます。今回は、相互作用や関連、組合せや変換、多様性やコラボレーションなど、新しい出会いと創造を意図した作品や取り組みを取り上げます。

石上 加寿也 (KAZUYA ISHIGAMI)

1972年、大阪生まれ。ノイズ・電子音響音楽の作曲及び即興演奏家。DRドイツ公共放送からの委嘱作品制作をはじめ、MUSLAB（メキシコ）、RADIA（イタリア）、ZEPPELIN（スペイン）、ICMCなどの国際会議・国際電子音響音楽祭で作品上演をおこなう。自主レーベル“NEUS-318”主宰、これまでに100タイトルを超える作品をリリースする。



©Yoshinori Kohzu

佐藤 亜矢子 (AYAKO SATO)

作曲家。主に電子音響音楽の領域で活動。映像や身体表現などとのコラボレーションも行う。作品は多数の国際会議や音楽祭で入選、受賞し、国内外で上演、放送されている。2019年東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了。リュック・フェラーリ研究で博士(学術)取得。現在、玉川大学、大阪芸術大学非常勤講師。



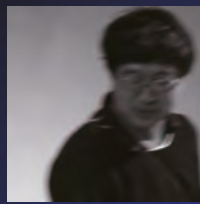
磯部 英彬 (HIDEAKI ISOBE)

作曲家、メディアアーティスト。作曲及び音響技術、コンピュータ音楽を土屋雄に師事。作曲活動のほか様々な他の作曲家の電子作品のオペレータを担当する。作品は日本をはじめ、オランダ、ドイツ、韓国などで演奏され、またセンサーを活用した電子楽器の製作や演奏補助機器等の研究も行っている。東京音楽大学非常勤講師。



柴山 拓郎 (TAKURO SHIBAYAMA)

作曲家・サウンドアーティスト。東京音楽大学および同大学院で作曲を、東京芸術大学博士課程先端芸術領域でメディアアートを研究。修士(音楽)、博士(美術)。Saitama Muse Forumでの地域アート活動、電子音響音楽を多様な人々と共創する参加型プロジェクトアートを実践している。東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系教授。



牛島 安希子 (AKIKO USHIJIMA)

作曲家。ハーグ王立音楽院修了。生命力を感じる音をテーマに室内楽作品やエレクトロアコースティック作品の制作を行う。作品はノヴェンバーミュージックフェスティバル（オランダ）、アルスムジカ音楽祭（ベルギー）などでBang on a Can アンサンブルなどにより世界各地で演奏されている。名古屋芸術大学非常勤講師。



平山 晴花 (HARUKA HIRAYAMA)

作曲家、パフォーマー。国立音楽大学大学院、英マンチェスター大学エレクトロアコースティック作曲博士課程修了(Ph.D.)。主にインタラクティブ音楽の作曲について研究し、国際学会や音楽祭で作品が多数演奏されている他、作曲方法論などに関する論文も発表されている。北海道情報大学情報メディア学部准教授。www.harukahirayama.com



大久保 雅基 (MOTOKI OHKUBO)

1988年宮城県仙台市出身。プログラミングや音響機器等のテクノロジーによって新しい音楽体験を創造する作曲家。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース卒業。情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科修士課程修了。名古屋芸術大学芸術学科芸術学部デザイン領域、愛知淑徳大学人間情報学部、相愛大学非常勤講師。



横山 真男 (MASAO YOKOYAMA)

早稲田大学卒。様々な職を経て東洋大学にて博士(工学)を取得。現在、明星大学情報学部教授としてコンピュータや科学による作曲のほか音楽情報・楽器音響等の研究に従事。作品は国内外の著名な演奏家から愛好家まで幅広く演奏され、国際作曲コンクールで入選があり、楽譜は国内外の出版社から出版されている。



- 主催 -
明星大学情報学部
(東京都日野市)

- 企画運営 -
Tama Music and Arts Festival 実行委員会

・横山真男(明星大学)
・平山晴花(北海道情報大学)
・佐藤亜矢子(玉川大学)
・チラシデザイン:山本舞優(北海道情報大学情報メディア学部3年)
・ウェブサイト:岩城尚斗(国立音楽大学大学院1年)